

S I D R

滋賀県感染症情報

SHIGA Infectious Diseases Report

《週報》

第 5 巻第 39 号

第 39 週(9月 26日 ~ 10月 2日)

発行年月日:平成17年(2005年) 10月 7日

発行 :滋賀県衛生科学センター内
滋賀県感染症情報センター

電話 077-537-3051 FAX 077-534-3936

1)全数報告の感染症(1類~5類)

感染症類型	疾患名	報告数 (39週)	累積報告数		平成16年報告数	
			滋賀 (39週)	全国 (39週)	滋賀	全国 ^{(*)1}
1類感染症	報告なし	0	0	0	0	0
2類感染症	細菌性赤痢	0	^{(*)2} 6	445	9	576
	腸チフス	0	0	39	2	66
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	0	12	2,821	21	3,640
4類感染症	E型肝炎	0	0	^{(*)3} 33	1	34
	A型肝炎	0	1	^{(*)3} 134	0	136
	オウム病	0	1	26	1	39
	デング熱	0	1	54	2	45
	マラリア	0	0	50	2	73
	レジオネラ症	0	2	181	0	162
5類感染症	アメーバ赤痢	1	4	520	8	580
	ウイルス性肝炎	0	1	214	5	299
	クロイツフェルト・ヤコブ病	0	2	115	0	167
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	0	0	46	1	53
	後天性免疫不全症候群	0	4	871	6	1,119
	ジアルジア症	0	0	53	2	85
	梅毒	0	0	400	4	516
	破傷風	0	0	77	2	100
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	0	2	55	0	49
急性脳炎	0	2	^{(*)3} 143	1	164	

*1:平成16年報告数の全国報告数は、滋賀県で報告された疾患を対象としています。
*2:検疫法第26条の3に基づく検疫所長から滋賀県知事への通知分2件を含みます。
*3:平成17年第37週現在の報告数です(iDWR掲載の報告数を参考にしています)。

2)定点把握の対象となる5類感染症

(1)疾病別・週別発生状況(第34~39週、8/22~10/2)

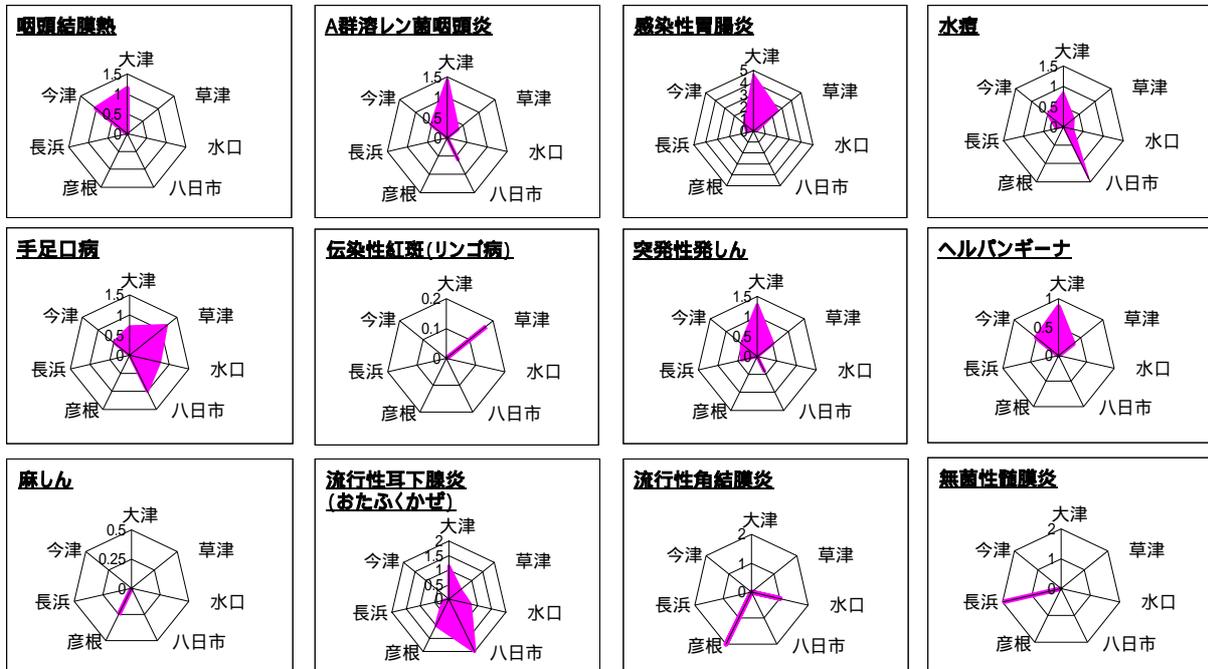
疾患名	定点当たり患者数(前週より増加 前週と同じ 前週より減少)					
	34週	35週	36週	37週	38週	39週
	(8/22~)	(8/29~)	(9/5~)	(9/12~)	(9/19~)	(9/26~)
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.73	0.76	0.70	0.64	0.61	0.30
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.12	0.18	0.18	0.33	0.21	0.48
感染性胃腸炎	1.55	1.30	1.36	1.94	1.33	1.67
水痘	0.64	0.42	0.45	0.61	0.73	0.55
手足口病	0.79	0.85	1.12	1.21	1.00	0.64
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0.06	0.06	0.06	0.03	0.03
突発性発しん	0.67	0.91	0.64	0.70	0.52	0.52
百日咳	0	0	0.03	0	0	0
風しん(三日はしか)	0.03	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	1.61	1.70	1.06	1.00	0.67	0.27
麻しん(成人麻しんを除く)	0	0	0	0	0	0.03
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	1.18	0.85	0.91	0.64	0.52	0.88
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.29	0.14	0.43	0.57	0.14	0.43
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.14	0	0.43	0.14	0	0.29
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0.14	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0

(2)疾病別・保健所管内別発生状況(第39週、9/26～10/2)

疾患名	定点当たり患者数(県・保健所管内別)							
	県	大津	草津	水口	八日市	彦根	長浜	今津
インフルエンザ	0	0	0	0	0	0	0	0
RSウイルス感染症	0	0	0	0	0	0	0	0
咽頭結膜熱	0.30	1.14	0	0	0	0	0	1.00
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.48	1.43	0.33	0	0.60	0	0	0.50
感染性胃腸炎	1.67	4.71	2.67	0.25	0	0	0.60	1.00
水痘	0.55	0.86	0.33	0.25	1.40	0	0.20	0.50
手足口病	0.64	0.71	1.17	0.75	1.00	0	0	0.50
伝染性紅斑(リンゴ病)	0.03	0	0.17	0	0	0	0	0
突発性発しん	0.52	1.29	0.50	0	0.40	0	0.40	0.50
百日咳	0	0	0	0	0	0	0	0
風しん(三日はしか)	0	0	0	0	0	0	0	0
ヘルパンギーナ	0.27	0.86	0.33	0	0	0	0	0.50
麻しん(成人麻しんを除く)	0.03	0	0	0	0	0.25	0	0
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	0.88	1.14	0.50	0.75	2.00	1.00	0.20	0
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
流行性角結膜炎	0.43	0	0	1.00	0	2.00	0	0
細菌性髄膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0
無菌性髄膜炎	0.29	0	0	0	0	0	2.00	0
マイコプラズマ肺炎	0	0	0	0	0	0	0	0
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0
成人麻しん	0	0	0	0	0	0	0	0

疾患別・保健所管内別発生状況(定点当たり患者数)

戻る



今週の発生状況：

咽頭結膜熱は減少傾向となっていますが大津では先週に引き続きやや多い状態となっています。水痘は先週と同様に八日市で多くなっており、手足口病は各保健所とも先週より少なくなっています。また、伝染性紅斑は草津から、麻しんは彦根から、無菌性髄膜炎は長浜から報告されており、流行性角結膜炎は水口および彦根から報告されています。

- 全数報告感染症 -

滋賀県内の医療機関において、医師が感染症法で定められている一～四類および五類感染症に該当する患者を診断したとき医師は保健所に届出ることになっています。届出により、滋賀県内で発生している感染症法で定められた一～四類および五類感染症を把握することができます。これを全数報告の感染症といえます。

* 感染症法: 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律

- 定点当たり患者数 -

感染症発生動向調査事業に係る報告のために、滋賀県が指定した「指定届出機関」を定点医療機関(定点)といい、一週間の単位として一カ所の定点から何人の患者が報告されているかを示したものです(患者報告数/定点医療機関数)。

例えば、一つの疾患(インフルエンザ等)について、一週間に53カ所の定点から総数53人の報告があれば、定点当たり患者数は1.00となります。

* 疾患により定点数は異なります。

3) 今週のトピックス

ヘルパンギーナの発生は全国と同様に減少傾向 国内初の「ウエストナイル熱」患者の発生

定点把握の対象となる5類感染症の発生状況は、先週(9月19日～9月25日)の報告数とほぼ同じですが、A群溶レン菌咽頭炎、流行性耳下腺炎等は増加し、咽頭結膜熱、水痘、手足口病およびヘルパンギーナは減少しています(詳細については、疾病別定点当たり患者数のグラフ参照)。

また、全数報告感染症についてはアメーバ赤痢1名の届出がありました。

A群溶レン菌咽頭炎については、第34週(8/22～8/28)以降微増しており今週の定点当たり患者数は0.48となっています。特に、大津保健所管内では急増し定点当たり患者数は1.43と多くなっています。

感染性胃腸炎については、先週の定点当たり患者数1.33よりやや増加し1.67となり、大津および草津保健所管内で多くなっています。

ヘルパンギーナについては、先週に引き続き減少し昨年の同時期とほぼ同じ発生状況となっています。また、全国の発生状況とも同様の傾向を示しています。

流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)については、先週の定点当たり患者数0.52よりやや増加し0.88となり、大津、八日市および彦根保健所管内で多くなっています。

ウエストナイル熱患者の発生について(平成17年10月3日、厚生労働省報道発表資料より)

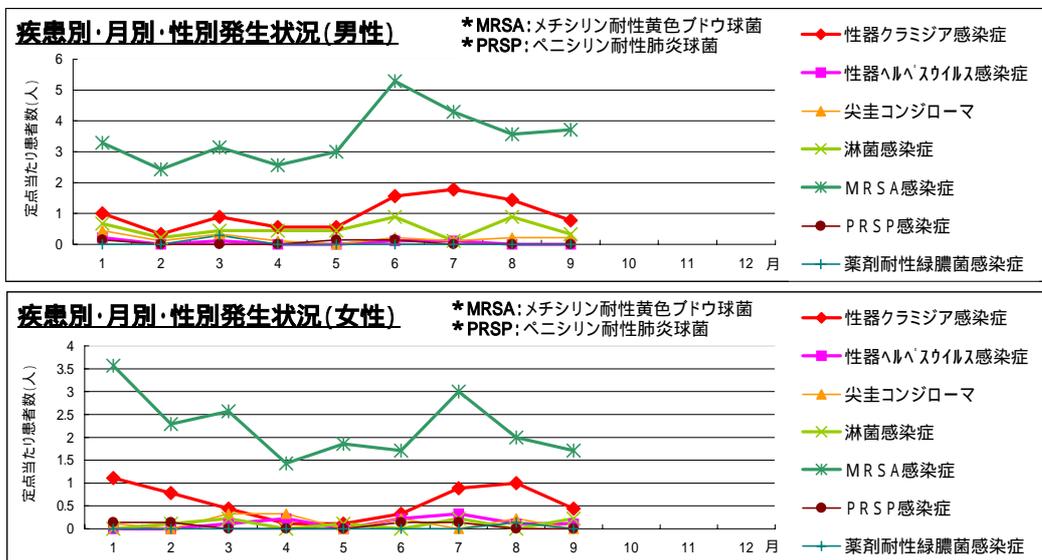
米国滞在中に蚊に刺され、ウエストナイル熱に感染した患者が国内で初めて確認されました。感染した30歳の男性は、今年の8月24日に出国し、8月28日から9月4日までロサンゼルスに滞在後、9月5日に帰国しました。帰国時に発熱および頭痛症状があり、その後、発疹が出たため医療機関を受診しました。臨床症状および血液検査の結果からウエストナイル熱と診断されましたが、その後、男性はすでに回復しており男性からウエストナイル熱が流行することはありません。

また、感染時期については帰国前に滞在していた米国においてウエストナイル熱に感染した可能性が高いと判断されています。

(注)

ウエストナイルウイルスは、ヒト-蚊-ヒト感染およびヒト-ヒト感染することはありません。また、感染した患者から感染が拡大することはありません。

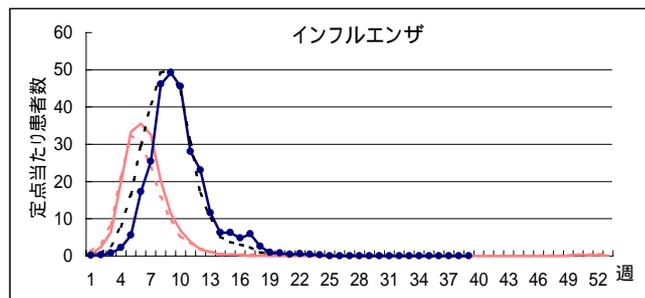
4) 性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(平成17年1月～9月)



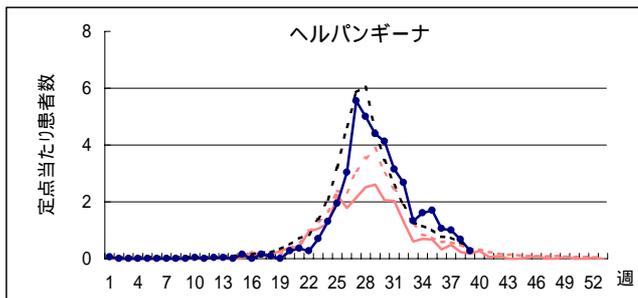
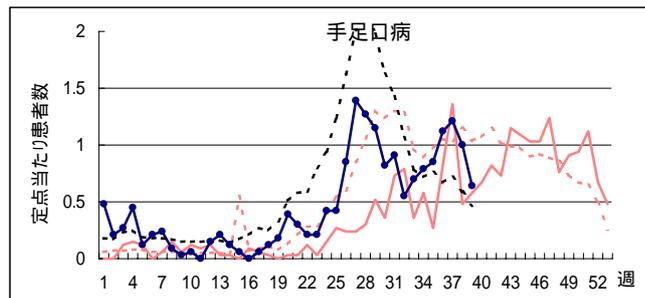
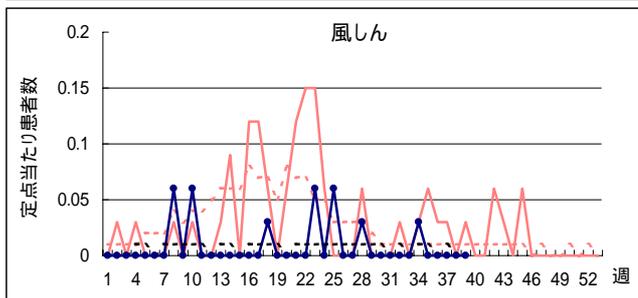
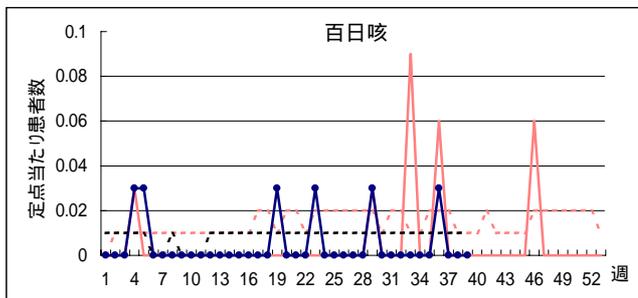
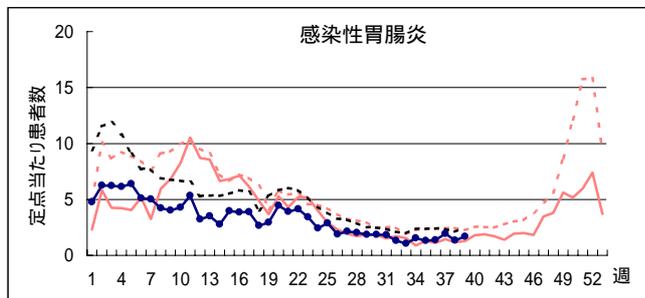
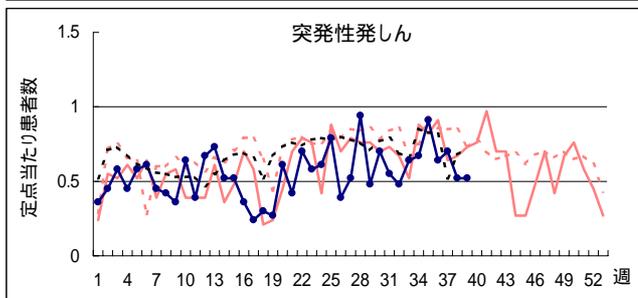
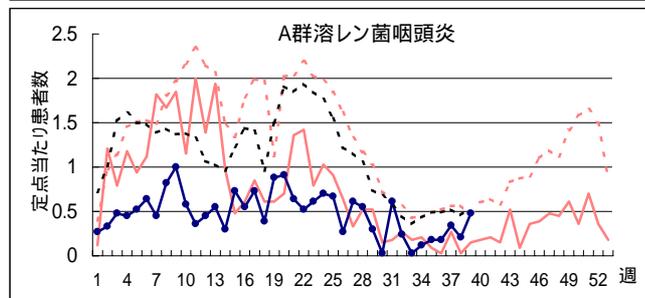
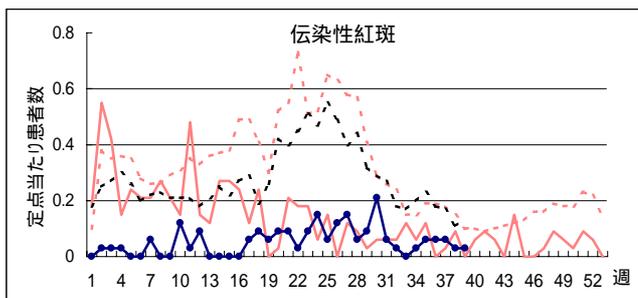
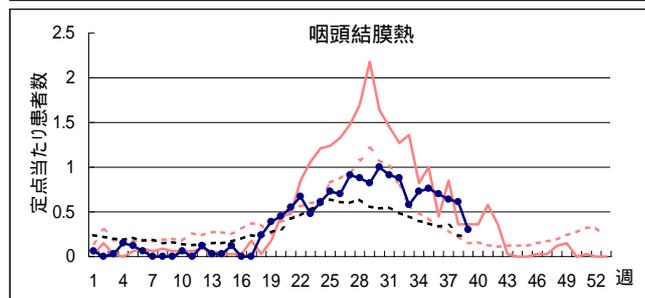
性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況を先月と比較すると、性器ヘルペスウイルス感染症およびPRSP感染症に変化はみられませんが、その他の疾患については減少しています(詳細については性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況のグラフ参照)。

各疾患の月別・性別発生状況は上記のグラフのとおりです。男性では性器クラミジア感染症および淋菌感染症が減少し、MRSA感染症がやや増加しています。女性では性器クラミジア感染症、MRSA感染症等が減少し、淋菌感染症が増加しています。

疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第39週、H17.1.3～H17.10.2)

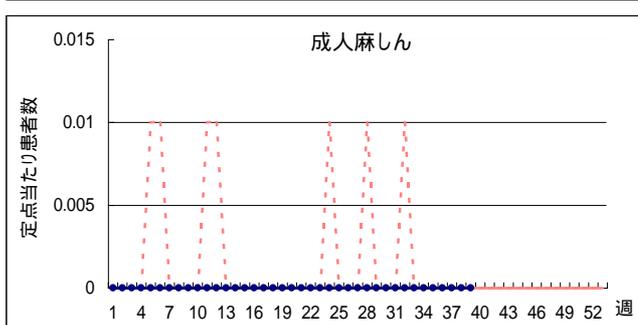
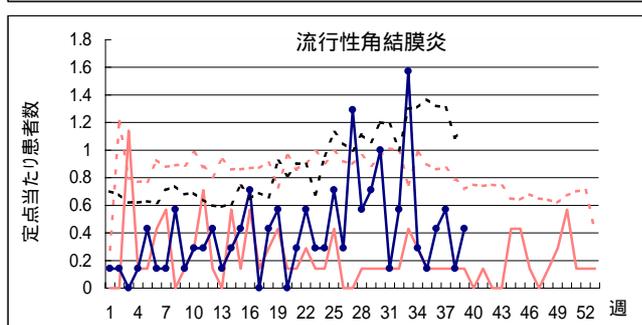
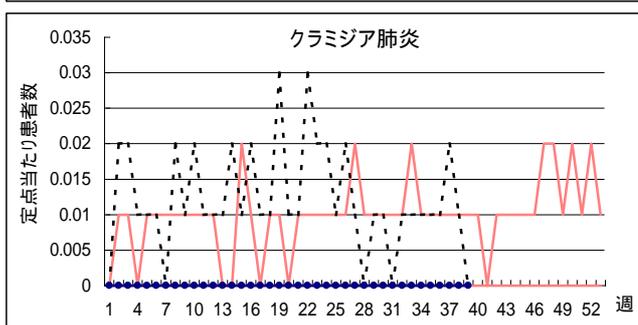
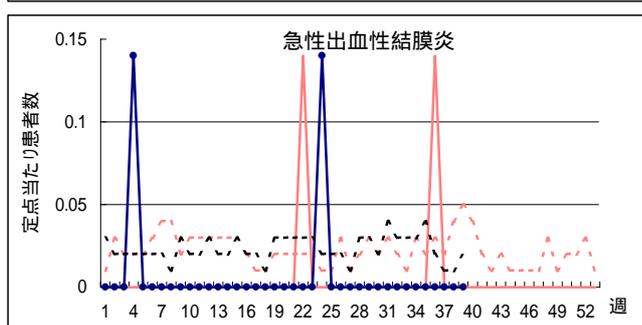
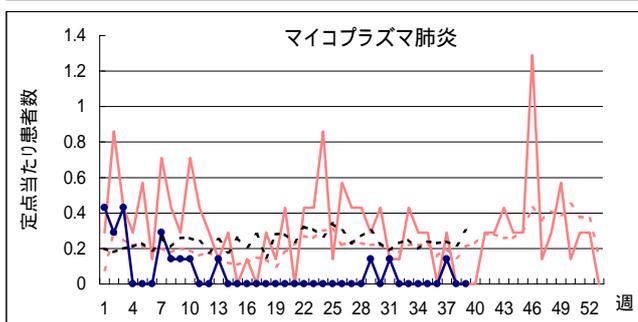
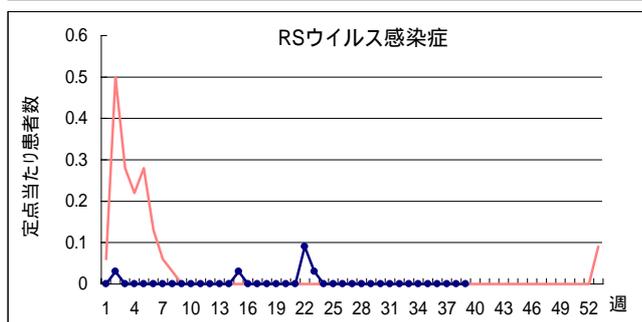
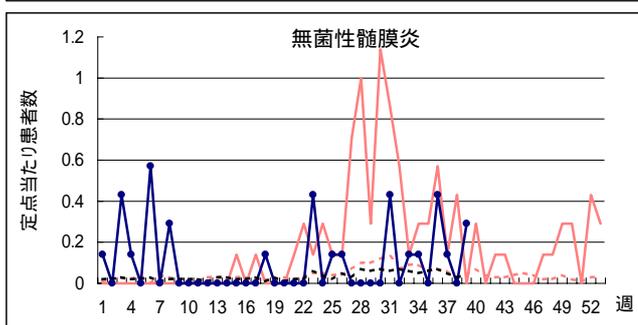
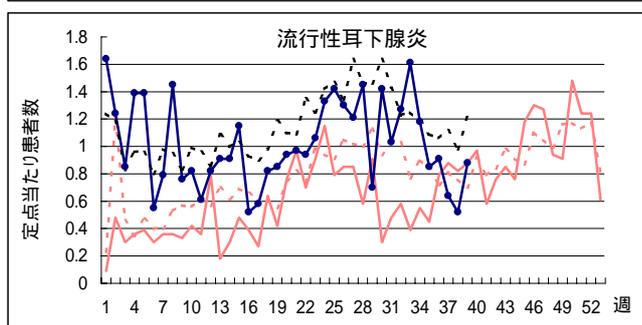
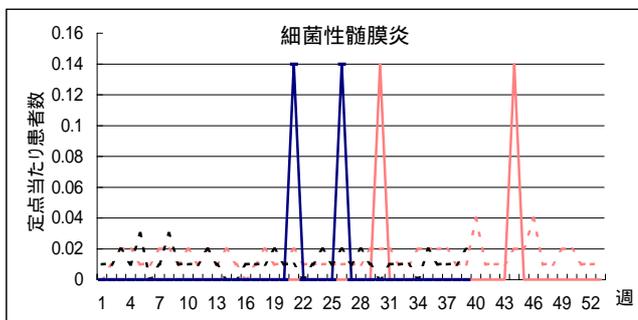
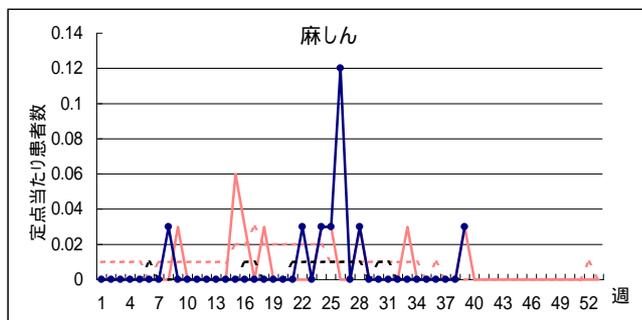


H16 { 滋賀 ————
 全国 ······
 H17 { 滋賀 ●——●
 全国 ······



疾病別定点当たり患者数(平成17年第1週～第39週、H17.1.3～H17.10.2)

H16 〔 滋賀 ———— 全国 〕
 H17 〔 滋賀 ●——● 全国 〕

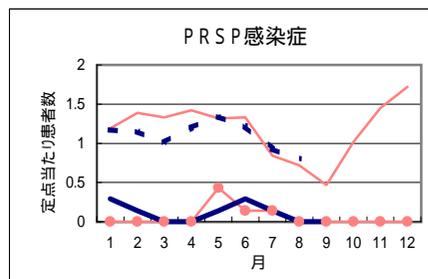
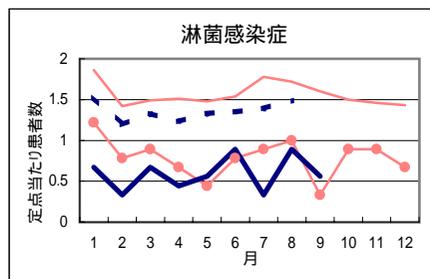
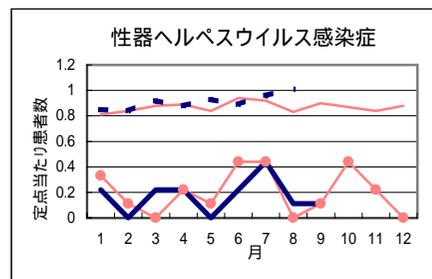
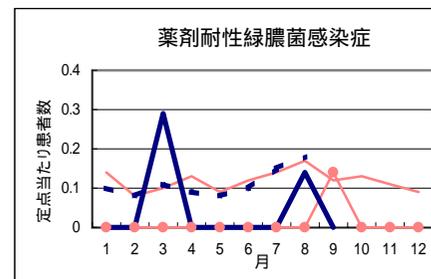
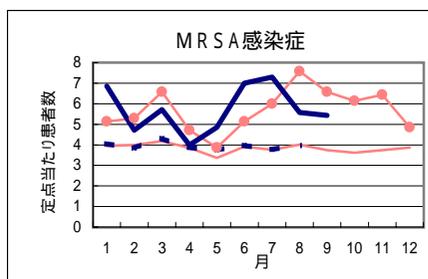
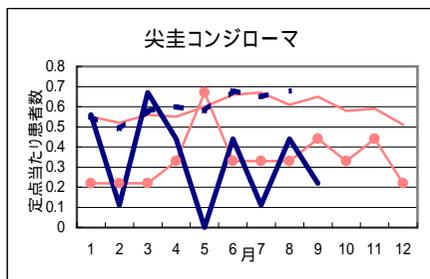
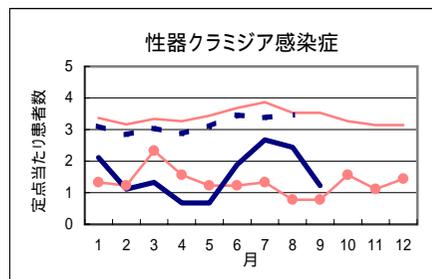


性感染症定点および基幹定点における疾病別発生状況(滋賀県)

9月報 (集計期間:平成17年1月~9月)

戻る

		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
性器クラミジア感染症	罹患数	19	10	12	6	6	17	24	22	11				127
	定点当たり	2.11	1.11	1.33	0.67	0.67	1.89	2.67	2.44	1.22				1.57
性器ヘルペスウイルス感染症	罹患数	2	0	2	2	0	2	4	1	1				14
	定点当たり	0.22	0	0.22	0.22	0	0.22	0.44	0.11	0.11				0.17
尖圭コンジローマ	罹患数	5	1	6	4	0	4	1	4	2				27
	定点当たり	0.56	0.11	0.67	0.44	0	0.44	0.11	0.44	0.22				0.33
淋菌感染症	罹患数	6	3	6	4	5	8	3	8	5				48
	定点当たり	0.67	0.33	0.67	0.44	0.56	0.89	0.33	0.89	0.56				0.59
MRSA感染症	罹患数	48	33	40	28	34	49	51	39	38				360
	定点当たり	6.86	4.71	5.71	4.00	4.86	7.00	7.29	5.57	5.43				5.71
PRSP感染症	罹患数	2	1	0	0	1	2	1	0	0				7
	定点当たり	0.29	0.14	0	0	0.14	0.29	0.14	0	0				0.11
薬剤耐性緑膿菌感染症	罹患数	0	0	2	0	0	0	0	1	0				3
	定点当たり	0	0	0.29	0	0	0	0	0.14	0				0



H16 { 滋賀 ●●●●●
 { 全国 ○○○○○
 H17 { 滋賀 ●●●●●
 { 全国 ○○○○○

MRSA:メチシリン耐性黄色ブドウ球菌
 PRSP:ペニシリン耐性肺炎球菌